

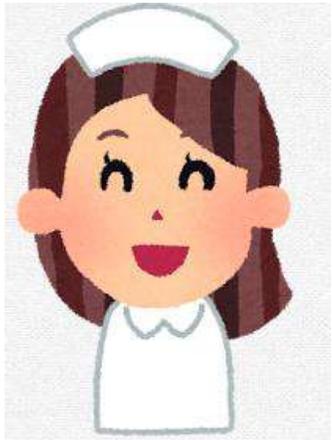
てんかん看護

国立精神神経医療研究センター病院

看護部 原 稔枝



今日、お伝えしたいこと



- ・てんかんの診断
- ・てんかん発作の観察
- ・てんかん発作と生活支援
- ・てんかんをもつ方と家族への心理社会的ケア
- ・てんかん教育・啓発活動



てんかんの診断

てんかんの診断・治療の基本的流れ

てんかん発作型の決定



てんかん類型・症候群の決定



治療方針の決定

てんかんの診断・治療の基本的流れ

発作症状

脳波

てんかん発作型の決定

てんかん類型・症候群の決定

治療方針の決定

てんかん発作の症状

意識消失

けいれん

手足のしびれ

手足のピクつき

パタンと倒れる

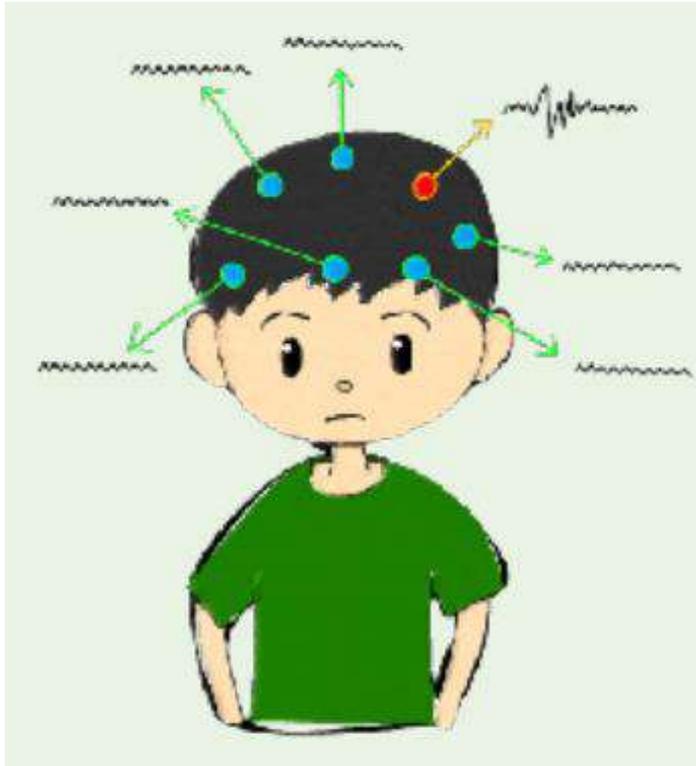
眼球偏視

笑う



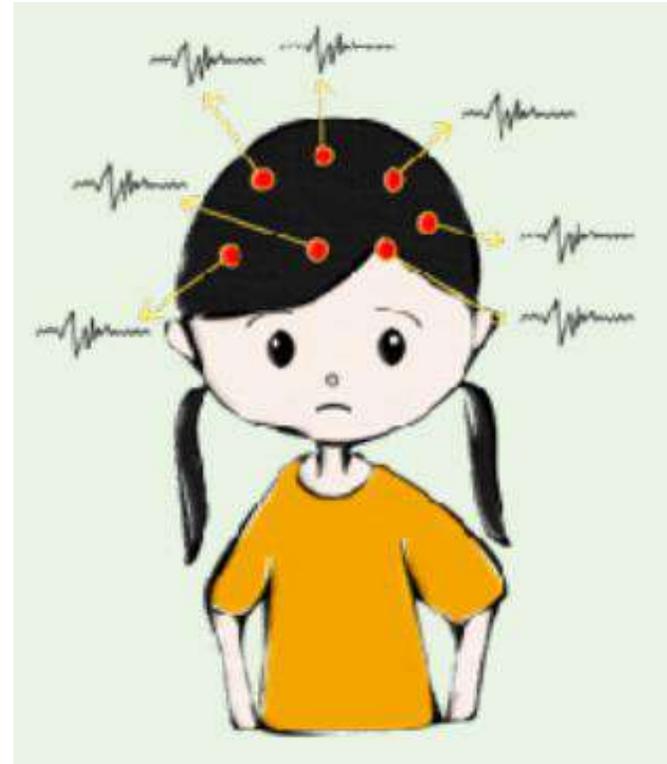
さまざまな発作がある

焦点起始発作



脳の一部分が
巻き込まれる

全般起始発作



脳の両側が
巻き込まれる



てんかん発作の観察

発作に出会ったら

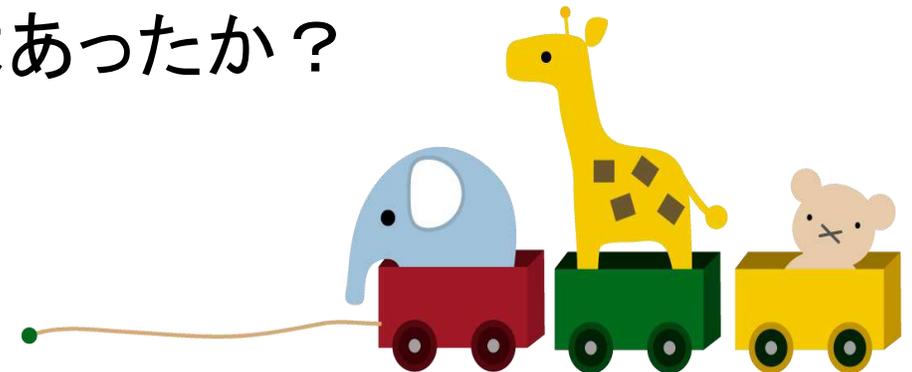
まず、自分の気持ちを落ち着かせ

冷静になりましょう！

突然起こる発作ですが、ほとんどの場合は自然に
終わり、発作そのものが致命的になることは滅多に
ありません

発作の具体的な様子は診療に大切な情報源！

- 発作は、どんなときに起こったか？
- 起きている時？ 眠っている時？
- 発作で倒れるか？ バタンと？ フラフラと？
- 身体に力が入っていたか？ 左右差はあったか？
- 顔色の変化は？
- 発作のときに受け答えできるか？ 反応はあったか？
- 眼球偏位は？
- 発作の長さはどのくらいか？
- 失禁の有無は？



発作の誘発因子

- 覚醒時 : すっきり目覚めている時か, 眠気がある時か
- 睡眠時 : 入眠時, 熟睡時, 寝起き
- 身体状況 : 発熱, 興奮, 過労, 寝不足, 月経など
- 生活場面 : 入浴, 食事, 運動, 休息
- その他 : テレビ, ゲーム, 閃光, 大きな音など

誘発因子がわかると, 危険な状態の回避・発作コントロールに繋がる

発作時の観察ポイント

発作の始まり

病気の分類をする上で貴重な情報

動作が止まる, 転倒する勢いや方向, 力の入り具合
けいれんしている部位, 手や足の伸屈, 眼球の向き

発作の進み方

発作の波が脳の中でどのように広がるのか推測する情報

姿勢・表情の変化, 発作中の身体の動き(自動症)

発作後の様子

呼びかけへの反応, 手足の麻痺の有無, 言葉の理解
興奮やもうろう状態, 睡眠に入るか

てんかん発作の対応①

焦点意識減損発作(意識障害がある発作)

症 状

- 無目的に歩き回る
- 意味のわからないことを言う
- 衣服近くにあるものをまさぐる
- 口をムニャムニャさせる
- 多くは発作中の自分の行動を覚えていない

対 応

- ・無理に行動制限をせず、観察しながら傍で見守る
- ・危険回避ができないので、傍にいる人が危険物を取り除く
- ・名前を呼んだり、今居る場所を聞くなど意識の回復の仕方を観察する
- ・意識回復後に前兆の有無を聞く
- ・発作が小さくても繰り返す場合は、目を離さない(発作重積の可能性)

てんかん発作の対応②

強直間代発作

- 症 状
- 全身が硬くなり、細かなけいれん後、ガクガクとした動き
 - 顔色不良
 - 呼吸回復時、口の中の唾液を噴出する
 - 発作後眠りに入る事が多く、朦朧状態になることもある

- 対 応
- ・危険な場所であれば安全な場所に移動
 - ・転倒により頭を床に打ち付けないように保護する
 - ・けいれん中は無理に押さえ込まず見守る
 - ・けいれん終了後、呼吸が回復したら唾液や異物の誤嚥防止に努める
 - ・睡眠に移行した場合は、無理に起こさない
 - ・発作後の回復には個人差があるので、普段の対応を目安に起こす

発作の群発・重積

けいれん発作が3～5分以上止まらない
けいれんはしなくても発作を何度も繰り返す

対処方法

- スタッフへ応援要請
- 医師へ連絡
- 指示に従い、坐薬、口腔内投与、静脈注射などの処置
- 時間経過ごとの発作症状を観察記録する
- アプリで発作動画を撮影

発作の最中にしてはいけないうこと

- 身体を押さえつめる
- 大声で呼びかける
- 口の中に物を入れる
- 口の奥に指を入れる



発作症状の観察と対応の注意点

発作型、発作の誘発因子を知り、**最小限の制限**での生活を提案

→ 発作型を理解しリスク評価する

→ いつ、どのような時に発作になりやすいかを知る





てんかん発作と生活支援

てんかん発作時の安全への配慮

てんかん発作で倒れた際、受傷しない
ような環境を予め整えておくことが大切



発作の具体的な様子は診療に大切な情報源！

- 発作は、どんなときに起こったか？
- 起きている時？ 眠っている時？
- 発作で倒れるか？ バタンと？ フラフラと？
- 身体に力が入っていたか？ 左右差はあったか？
- 顔色の変化は？
- 発作のときに受け答えできるか？ 反応はあったか？
- 眼球偏位は？
- 発作の長さほどのくらいか？
- 失禁の有無は？



困りごとがみえる！
アプローチのヒント



リスク評価 てんかん発作の情報収集項目

前兆の有無	発作が起こりやすい時間帯・状況
発作中の意識の有無	発作の誘因
発作時の転倒の有無	発作による受傷歴
発作中の行動パターン	発作の頻度
発作後の状態	薬の減薬による発作増加
回復までの時間	薬の副作用

療養環境の調整

ベッド



肘掛のある安定した椅子とカバー



浴室環境の調整

浴室



脱衣室



洗面所



入浴中の発作への対応

- 身体を支えて水面から顔を出す
- 浴槽の栓を抜く
- けいれん中は水中で体を支え、無理に引き上げない
- 発作が治まったら、ゆっくり水から引き上げる
- 溺れている場合は、ただちに水から引き上げ、
救急処置を実施

調理・食事時の安全への配慮

熱湯は避ける

プラスチックの食器

家具にカバー

ひじ掛けのある椅子



電子レンジの活用



見守りながら調理

食事中の発作への対応

- 口の中に食べ物が残っていても無理に出そうとしない
指やタオルなどを口に入れると、窒息や口腔内を傷つける危険大
- けいれんなど発作が止まったら、顔を横に向け誤嚥を防止
- 誤嚥の可能性がある場合は、すぐに吸引などの処置を実施

薬物療法と看護



- 体重変動を把握し、微量で薬物調整
- 定期的に薬物血中濃度を測定し評価
- 薬物調整に伴う発作状況の変化，副作用症状の出現に注意
→ 発作が群発してしまう症例もある
- 発作や副作用による生活への影響・リスク管理

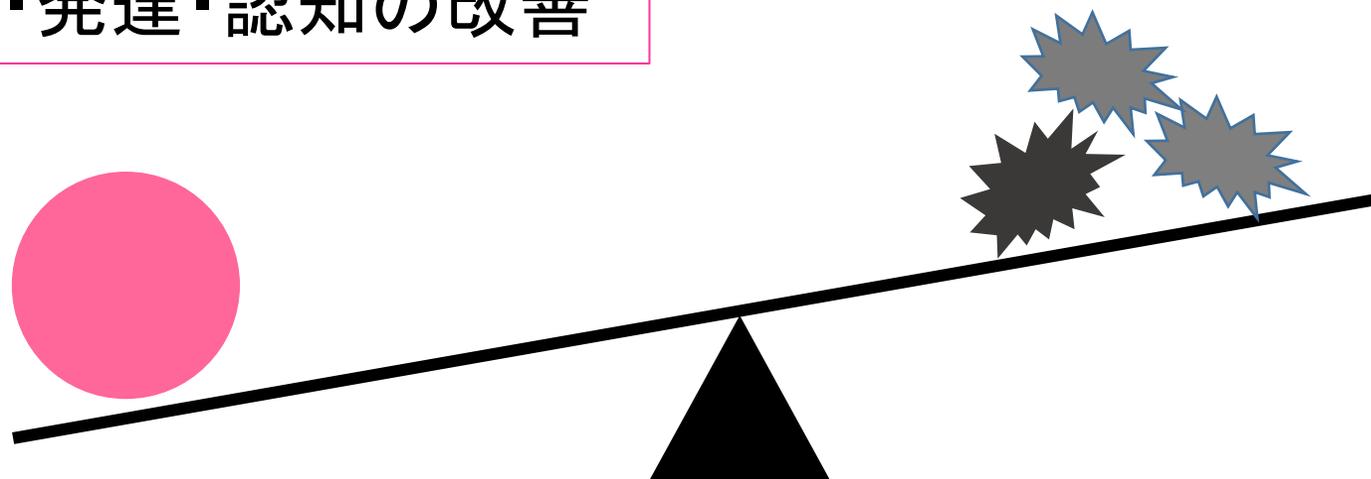


効果

発作
頻度
程度
長さ
日常生活への影響
行動・発達・認知の改善

副作用

眠気
ふらつき
行動面の問題
多動, 興奮
分泌物増多



服薬管理

- * 「なぜ薬を飲むのか」分かりやすく説明し、
自分で服薬できる方法を身につける
- 決まった時間にステーションに来て服用する習慣づけ
- 確実に内服するよう指導
- 飲みこぼしがないか確認
- 能力・理解力に応じた自己管理方法の提案
- 服薬コンプライアンスから、服薬アドヒアランスの考え方へ





てんかんをもつ方と家族への 心理社会的ケア

発作

薬の副作用

成長の遅れ

生活機能

就学

様々な併存症

就労

自信喪失

車の運転

当事者

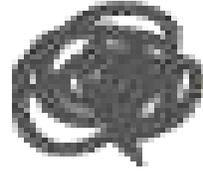
結婚

出産

社会の
偏見

予後

医療費

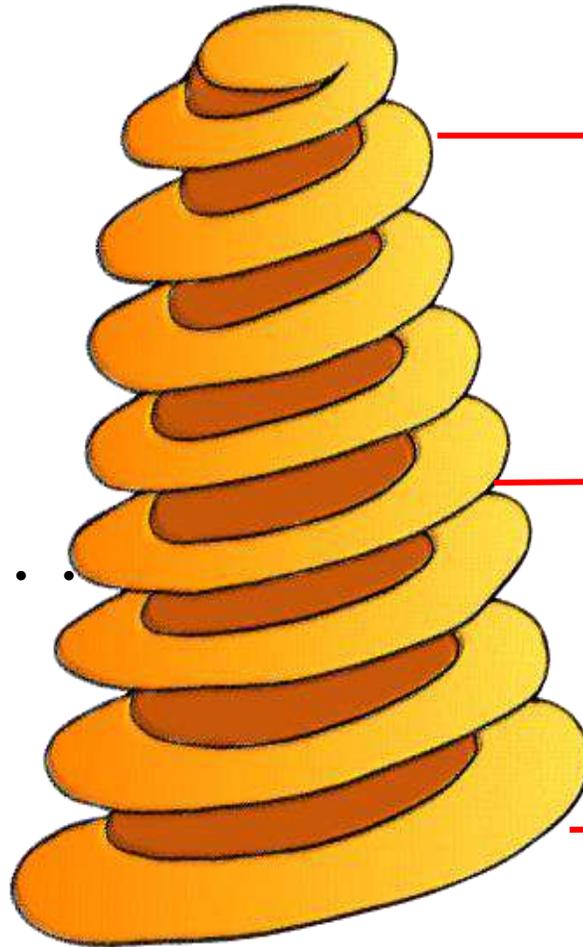


てんかんを持つ当事者や家族の特徴

- 発症後間もない時期は、受け入れたくないという思いが強い
- 常に発作がいつ起こるのかという不安を抱えている
- 周囲も過保護・過干渉になりやすい
- 偏見や過剰な制限や対応を受けることがある
- 周囲から孤立し、誰にも相談できず多くの不安を抱えやすい
- 問題の原因を、全て発作によるものと転嫁することがある

病気・障害の克服への道

8. 仲間づくり
行動しよう
7. 活動
これをしよう！
6. 受け入れ
今やっとわかった！
5. 抑うつ
何のために？意味ないよ！
4. 病気との関わり
もしそうなら、～せざるをえない・・・
3. 怒り
なぜ私が？
2. 確実
こんなことありえない！
1. 不確実
一体どうしたんだ？



段階Ⅲ
目標期

段階Ⅱ
通過期

段階Ⅰ
導入期

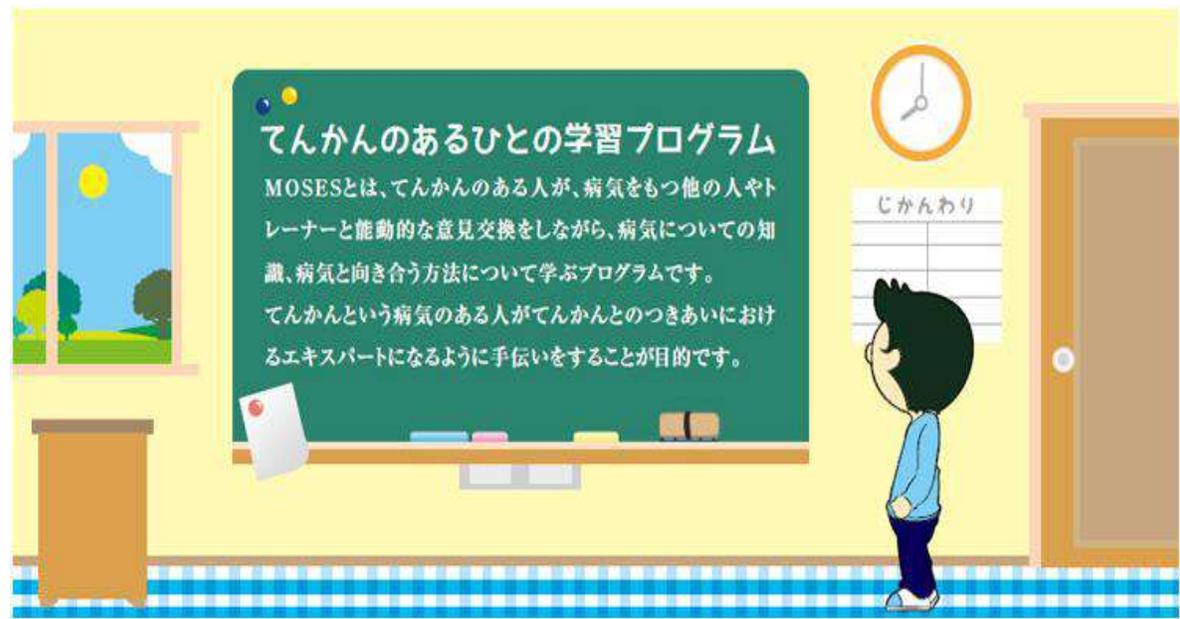
周囲への告知について

告知することへの不安

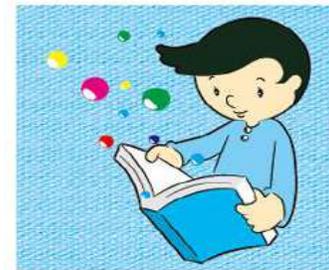
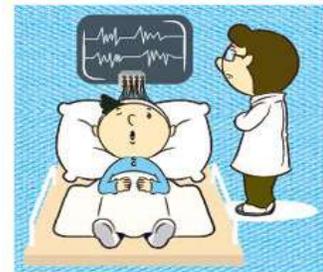
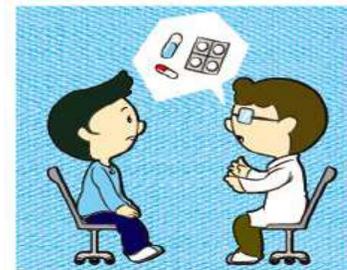
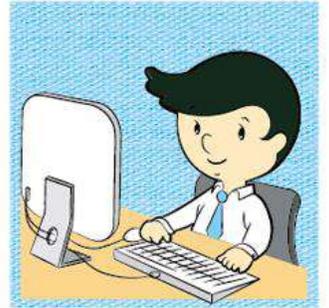
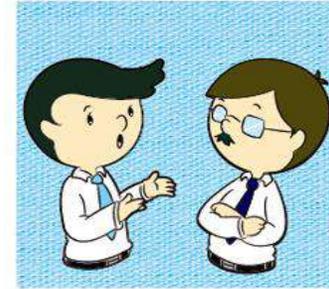
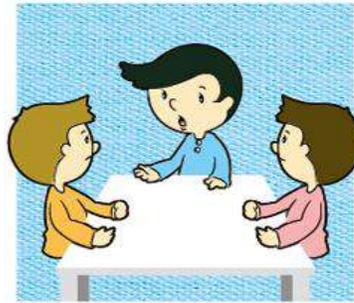
- ・告知すると、人が離れて行ってしまわないか
- ・学校でいじめにあってしまうのではないか
- ・会社に解雇されるのではないか

対策

- ・周囲に病気を肯定的に伝える
- ・自分の病気を正しく伝えられるように、主治医・看護師・心理士・SWと協働し進める
- ・病気や本人の思いを正しく理解してもらうために、**本人と家族自身が病気を正しく理解し受け止める**必要がある



- てんかんとともに生きる
- 疫学
- 基礎知識
- 診断
- 治療
- 自己コントロール
- 予後
- 心理社会的側面
- てんかんのネットワーク



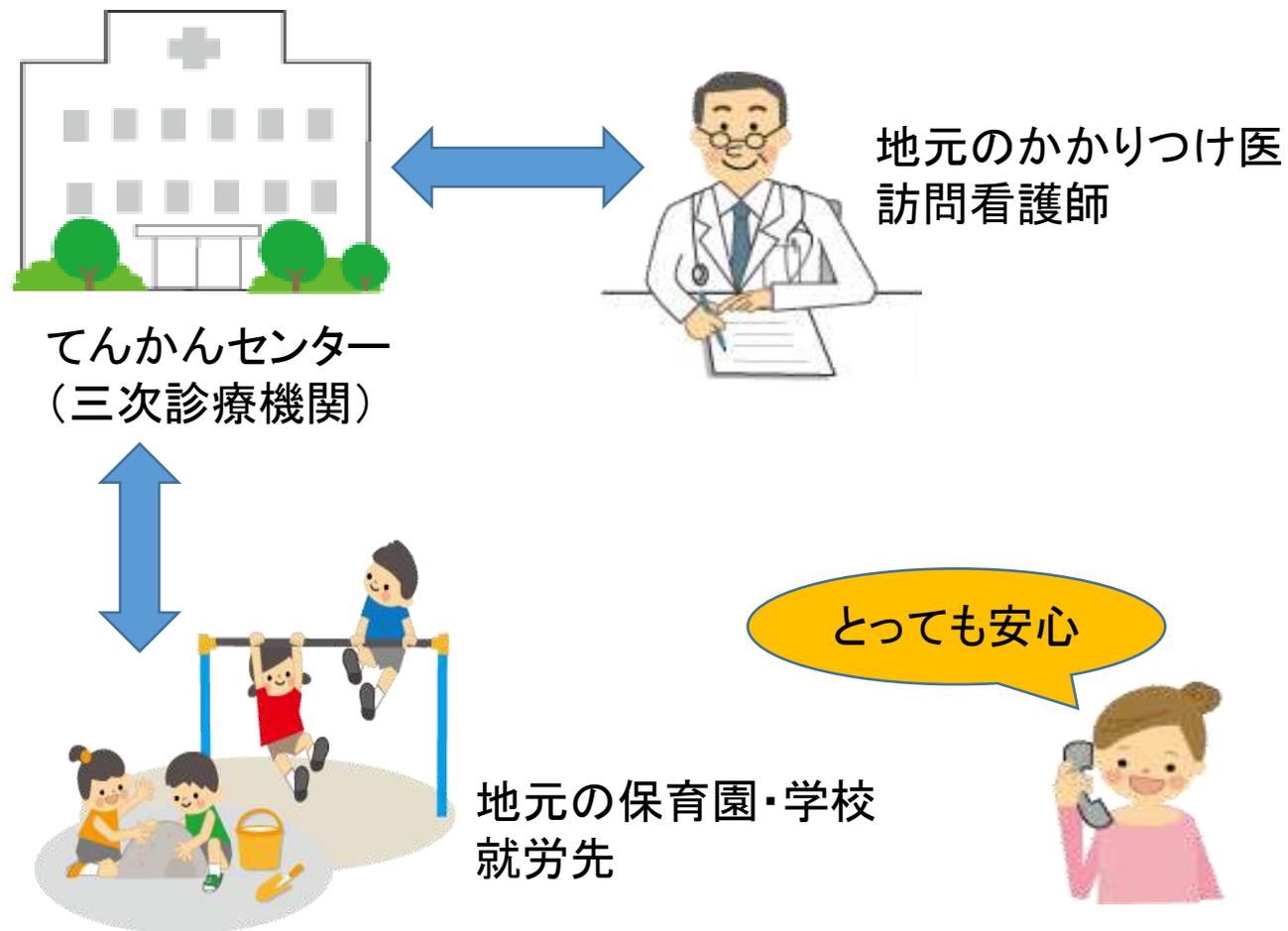
院内・外でのネットワークづくり

院内のネットワーク(家族交流)



家族教室の様子

院外のネットワーク(地域連携)



入院時からの退院後の支援は始まっている



医師 : 検査・診断・治療方針の決定

看護師 : 治療の補助、療養上の介助、生活指導

検査技師 : 検査実施、診断に必要な身体的データの作成

放射線技師 : 検査実施、診断に必要な身体データデータの作成

薬剤師 : 薬剤管理・指導

栄養士 : 栄養管理・治療食の指導

療育 : 発達・療育支援

心理 : 本人と家族の心理面への支援

学校 : 学業への支援

リハビリ : 機能訓練・就労支援

ソーシャルワーカー : 地域との連携・社会的支援

多職種が専門的な視点で患者・家族を捉えて

情報を共有し、チームで患者の生活の質(QOL)の

向上を図ることを目標とする

地域連携 多職種連携で、その人らしくを支える！



NCNP谷口先生が
出演しています！



ハートネットTV「フクチッチ」

https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005170925_00000